

第2回現場見学会を函館で開催

南茅部川汲4急傾斜地 37人が参加

2023.10.17

主催:急傾斜地工法研究会 / 相取工法協会

急傾斜地工法研究会と相取工法協会は10月17日、第2回目の現場見学会を函館市内で開き、相取工法での安全施工をPRした。

現場は、函館市川汲の南茅部川汲4急傾斜地工事で函館建設管理部の発注。齊藤組の施工で8月より工事がスタートし、土留柵を伊丸特殊工事が請け負っている。

見学会には会員19人のほか函館建設管理部治水課、同事業課、渡島総合振興局林務課などから18人、合わせて37人の参加があり、道南地区で初めての開催に関心の高さがうかがわれた。



南茅部地区は旧国道に沿って海側、山側に民家が張り付く典型的な漁村地域で山側は急傾斜地になり、その下がりぎりに民家が張り付いている。過去には雨による土砂崩壊の被害にも見舞われた。

はじめに中塚卓朗会長が「急傾斜地工事は機資材の搬入がとても困難な作業。危険リスクが高く、利益も薄いのでできれば避けたいなどと言われてきた。しかし施工方法の課題を発注者、設計者、施工者それぞれの立場で共有し、それを解決することにより安全でスピーディーな施工に繋げることが可能だ。我われもそのために会として提案していきたい」とあいさつした。続いて川橋歩現場代理人が工事の進捗状況等を説明。加賀谷俊明技術委員長は、ラフタークレーンで施工する場合との比較などを交え、ジブクレーンでのメリットについて資料をもとに解説した。



南茅部川汲4急傾斜地工事の特徴は、急傾斜の上に向けて施工をする通常のスタイルとは逆に、急傾斜地の上からジブクレーンで工事を進めている点だ。下に作業ヤードを確保できないため上からジブクレーンで機資材の吊り降ろし、吊り揚げを行う。簡単そうに見えるが、民家の上部なので気をを使うようだ。操作はリモコンにより、オペレーターが全体を確認ができる位置で周囲に注意しながらブームを動かしている。

当日の施工は下から3段目のボーリングを行う工程。参加者は昇降階段を下り、中腹に設置した2代目のジブクレーン近くで全体の状況を見渡していた。斜面にクレーンを設置する方法、ボーリングマシンの搬入、足場の強固さや防護柵の状況などの説明

を受けながら見入っていた。最後の質疑応答では、ジブクレーン組み立てに要する時間とその足場を組む時間、H 鋼で足場を組む場合と人力で単管足場を組んだ時の価格差について質問が寄せられた。

オプションで南茅部川汲事業間連携急傾斜地工事現場に設置されている中塚建設所有の新型ジブクレーンも見学した。同現場は、川汲4から恵山方面に2㌔の距離に位置し石黒建設が施工している。ここも上にジブクレーンを置く施工。設置されていたのは美貴本（大阪）のCSH36で、オレンジ色の車体が目を引く。



伊丸特殊工事が所有している日立建機製はすでに生産が終了しているため、国内では美貴本と三和テッキ（東京）の2社でしかジブクレーンは販売されていない。

参加者は、クレーンを前に操作性の違いや分割した際の運搬方法、価格などに質問を寄せていた。



川汲4の中腹に設置されたジブ ↑

中塚建設が所有する CSH36 スーパージブクレーン ↑

*今回は函館市から30分ほどの旧南茅部町川汲にある現場。尾札部道路から工事用道路で海側に入る。

比較的作業スペースも広く、青い海が臨める。波の音も聞こえます。

当初、札幌から遠い現場なので定員20人程度を予定していましたが、実際には倍近い参加を頂きました。

ありがとうございました。

2023.10.17 函館市川汲4の現場にて

天気 曇り時々晴れ。ちょっと小雨 最高気温19.1度